

第97回 相模湖地区まちづくり会議 全体会 結果

- 日 時 令和7年6月19日(木)・19時開会
- 場 所 相模湖総合事務所 3階 大会議室
- 出席委員数 16名出席(3名欠席)
- 傍 聴 者 0名

1 開会

2 代表あいさつ

○河津代表からあいさつ。

3 報告事項等

(1) 相模湖地区まちづくり会議委員の変更について

○事務局から標記の件について添付資料のとおり説明。

今回から出席した岩間委員、山本委員、榎本委員、能村委員からあいさつ。

4 協議事項等

(1) 令和7年度地域活性化事業交付金の申請に係る意見について

○新規事業2件について申請団体の代表者から事業の目的、内容等について説明、委員が質問、協議し、承認された。

継続事業1件については事務局から事業の目的、内容等について説明、委員から承認された。

	交付年数	事業名	交付団体名
1	新規	阿津さくら保全・活性化事業	阿津さくら自然を守る会

*各委員からの主な意見・質問(◇主な意見・質問等、◆回答等)

◇長く続いている事業なのでこのまま続けてほしい。

	交付年数	事業名	交付団体名
2	新規	里山未来デザインプロジェクト@石老山	自然バカの会

*各委員からの主な意見・質問(◇主な意見・質問等、◆回答等)

◇以前石老山でおこなっていた事業に参加していて、台風とコロナ禍によって途中でやめることになってしまった。今回の事業はぜひ続けてほしいと考えている。

◇メンバーに地元の人が少ないが、もう少し地元の人々の意見を取り入れた方がいい。

◆地元の団体とも情報は共有するようにしている。将来的には地元の団体と共同で活動を行っていくことを目標としている。

◇広報活動はどのように行っているか。

◆SNS や地域情報誌等で行っている。

◇交付金がなくなった後も活動を継続するために自前の資金も用意すべきと考える。

	交付年数	事業名	交付団体名
3	2年目	小原地区元気いっぱい花いっぱい環境整備事業	小原草木会

*意見等特になし。

(2) 令和7年度地区まちづくりを考える懇談会について

○事務局から標記の件について添付資料のとおり説明、協議した。

協議の結果、今年度は地区まちづくりを考える懇談会は行わず、地区で課題だと考えるテーマについて、担当課から学ぶ学習会を行うこととなった。

内容については、次回のまちづくり会議全体会で決めることとなった。

*各委員からの主な意見・質問（◇主な意見・質問等、◆回答等）

◇市長にきていただいて話を聞いてもらえることはありがたいと思うが、あの形だと市も絞切型の回答しか出てこないところではあるので、絞ったテーマで担当課と直接話した方がよい話ができると思う。

◇今挙がっているテーマについては、やった方がいいとは思っている。ただ困って内容をぶつけても仕方ないので、テーマについて勉強会を行う必要があると思っている。

◇皆さんの話しぶりを聞いているとまちづくりを考える懇談会を行うことにそこまでメリットを感じていないように見受けられる。実際、参加した方はどのように感じているのか。

◆とにかく時間が足りない。実質的な懇談時間が一時間程度の中で話せる内容は限られているのであれば、もっと多くの時間を使って担当課との話し合った方がよいと考えている。

◇今の話の限りでは、市長を呼んで懇談会という方式よりも、より現場に近い方を呼んで話し合った方が有意義であるように感じた。

5 他団体からの報告事項等

(1) さがみ湖野外バリエフェスティバル 2025 について

○相模湖芸術・文化まちづくり実行委員会から標記の件について添付資料のとおり説明。

*各委員からの主な意見・質問（◇主な意見・質問等、◆回答等）

◇開催の時間帯は？

◆現在調整を行っている。

◇10月は小中学校のイベントが多いので子供たちが見ることができる時間に設

定してほしい。

◇チケット代についてはどの程度を想定しているのか。

◆現在調整している。できる限り低い額に設定したいと思っている。

◇子供たちの無料招待などはないか。

◆そうしたことができるように現在調整を行っている。

◇アトリエヨシノはどのようにかかわっているのか。

◆衣装の提供、コンテンツの制作、進行等ができる方を県の方に紹介している。実質的に事務人員なども提供している。

◇バレエに関する展示があれば地元への理解が少しはあるかと思う。

◆交流センターと協力してできるように考えている。またほかのイベントでもできるように進めている。

◇バレエの周知の取り組みを地域の振興にも絡めて行ってほしい。健康バレエ体操の取り組みなどは素晴らしいと思うが、もっと地域にかかわった形で行ってほしいと思う。バレエフェスティバルまであまり時間がないが、地域への周知が広がっているようには思えない。

◆あまり時間は残されていないが、できる限り周知につとめていきたい。

◇懇談会の時は時間の都合があって話せる人が限られていた。話したい人が話せるのであれば勉強会の形にした方が良いと思う。

6 各部会からの報告について

・産業・観光専門部会

吉良部会長から、4月19日（土）に開催された相模湖の歴史物語セミナーについて報告。公表であったことから第2回目を予定している。

・子ども・若もの専門部会

特になし。

7 その他

・代表より消防団を名乗り家族構成聞き出す事案や若葉台の窃盗事件等について注意喚起を行った。小川委員からもガスの点検を名乗る不審な電話についての報告、森久保委員からも窃盗の手口等についての注意喚起があった。

・公募委員の応募に3名が希望してきた旨を報告。

8 閉会

以 上

第97回 相模湖地区まちづくり会議全体会 次第

日 時： 令和7年6月19日(木)
午後7時～

場 所： 相模湖総合事務所 3 階 大会議室

1 開 会

2 代表あいさつ

3 報告事項等

- (1) 相模湖地区まちづくり会議委員の変更について 資料 1

4 協議事項等

- (1) 令和7年度地域活性化事業交付金の申請に係る意見について 資料 2-1～2-5

- (2) 令和7年度地区まちづくりを考える懇談会について

ア 開催候補日について

イ 地区まちづくりを考える懇談会テーマについて 資料 3-1、3-2

5 他団体からの報告事項等

- (1) さがみ湖野外バレエフェスティバル 2025 について 別紙
(相模湖 芸術・文化のまちづくり実行委員会)

6 各部会からの報告について

7 その他

8 閉 会

資料1

第8期 相模湖地区まちづくり会議委員名簿

令和7年6月・敬称略

番号	役職	専門部会	所属団体等		氏名	新任委員
1	代表	－	地域活性化事業交付金交付団体	サンタクロースプロジェクト	河津 暁	
2	副代表	産業・観光専門部会	教育・スポーツ・文化関係関係	相模湖地区公民館運営協議会	鈴木 克枝	
3	副代表	子ども・若もの専門部会	公募委員	－	川村 千穂子	
4	理事	産業・観光専門部会	自治会関係	相模湖地区自治会連合会	森久保 高弘	
5	理事	子ども・若もの専門部会	教育・スポーツ・文化関係関係	相模湖地区小学校ＰＴＡ「桂北小学校」	加藤 千晶	
6	理事	産業・観光専門部会	地域活性化事業交付金交付団体	さがみ湖コンシェルジュ	吉良 奈美乃	
7	理事	産業・観光専門部会	公募委員	－	植田 聡子	
8		産業・観光専門部会	自治会関係	相模湖地区自治会連合会	岸 義之	
9		子ども・若もの専門部会	保健・福祉関係団体	相模湖地区民生委員児童委員協議会	清水 孝夫	
10		産業・観光専門部会		相模湖地区社会福祉協議会	岩間 肇	○
11		－		相模湖地域包括支援センター	和田 理江	
12		子ども・若もの専門部会	産業・経済関係団体	相模湖商工会（女性部）	淵上 美紀子	
13		－		相模湖商工会（事務局）	－	
14		産業・観光専門部会		一般社団法人 相模湖観光協会	佐藤 和仁	
15		産業・観光専門部会		与瀬商栄会	岸野 和広	
16		子ども・若もの専門部会	教育・スポーツ・文化関係関係	相模湖地区小学校ＰＴＡ「北相中学校」	山本 信宏	○
17		子ども・若もの専門部会		相模湖地区小学校ＰＴＡ「千木良小学校」	榎本 知代	○
18		子ども・若もの専門部会		相模湖地区小学校ＰＴＡ「内郷小学校」	能村 俊貴	○
19		子ども・若もの専門部会		相模湖地区小学校ＰＴＡ「内郷中学校」	川上 はぎ乃	
20		産業・観光専門部会	安全・安心関係団体	緑区安全・安心まちづくり協議会相模湖支部	小川 達雄	

令和7年度 地域活性化事業交付金事業一覧

No.	①地区	⑤事業等の名称	⑨過年度の実績と 事業による効果	⑩事業実施の背景や 地域の現状と課題	⑪事業の目的	⑫事業内容及び事業スケジュール	⑬全体金額 (単位:円)	⑭申請金額 (単位:円)	⑰次年度以降の事業計画及び事業展望、事業計 画について
	②要綱別表該当対象事業	⑥団体名					⑬主な収入	⑭主な支出	
	③優先的な対象事業	⑦団体会員数							
	④申請受理日	⑧新規・継続							
1	05	相模湖	小原地区元気いっぱい花いっ ぱい環境整備事業	・小原ふれあい広場の法 面整備 業者に委託し、小原ふ れあい広場の法面の整 備を行った。 ・小原ふれあい広場の花 植えによる景観整備 小原地域の有志を募っ て、小原ふれあい広場 の景観整備のための花 植えを行った。	各地に基大な被害をもたらした令和元 年東日本台風により地域の心の拠り 所・憩いの場である小原地区の八幡神 社の階段が全面的に崩落し、地域住 民にとっては暗い影を落としたが、令 和6年11月に地域一丸の努力により 階段修復工事が完了した。この復興を 契機に相模湖と小仏・城山や高尾山を 繋ぐハイキングコースであり、小原本 陣を核とした小原宿の魅力を最大限に 引き出すべく小原地区周辺の環境整 備を望む声が地域で高まっている。	上記の状況から地域自治会総意のもと 地域の有志を募って「小原草木会」を立 ち上げ、小原に訪れるハイカーや観光 客へより魅力的になるよう地域の整備 を行い、小原地域が活性化することを 目的とするものである。 また、現在小原で進めている、中山間 地域振興モデル地区の取組と併せた、 魅力の創出・発信を行っていきたい。	590,000	500,000	小原地区は、小原宿本陣を中心とした観光(地域) 資源の豊富な地区である。一方、少子高齢化が顕 著であり、津久井地域(津久井、相模湖、藤野)の重 要課題である中山間地域対策を進めて行くうえ でも、魅力ある街づくり、住んでみたい街づくり等が欠 かせない地域である。そこで、小原自治会総意のも と、地域の魅力向上の一歩として地区内に住む協 力可能なメンバーを中心に小原草木会を立ち上げ、 先ずは、小原ふれあい広場周辺の環境整備を進め る計画としました。今後は、これを皮切りに地域の関 係団体などとも連携を図りながら、地域の担い手の 育成に重点を置いて、小原地区の他の場所におい ても魅力向上アップに繋がる環境整備を順次進め て行きたいと考えている。
	04	産業や観光の振興に関す る事業	小原草木会						
	03	公共的な活動への参加者 増加	7名						
	令和7年4月25日		継続2年目						
2	05	相模湖	阿津さくら保全・活性化事業	0	阿津地区の地域振興のために、過去 に植林した河津桜の下草刈り等の保全 活動や、その桜を活用した地域イベン トでの発信や、地域の魅力を発信するた めのPR活動を行い、地域の活性化を目 指す。	・阿津地区の地域振興のために、過去に植林した河津桜のPRを行っていく。花見シー ズンを盛り上げていくために遊歩道の飾りつけを行っていく(のぼり・提灯の準備、 etc)。 ・阿津の桜を保全するための下草刈り、剪定。 ・剪定作業、広報活動等を行うためのスタッフジャンパーの用意。 ・ポスター、緑区のSNSで満開の時期に周知してもらう等の広報活動。 2025.6月～ 花見シーズン用のぼり、提灯、スタッフジャンパー発注 2025.11月～ 下草刈り、桜の剪定等作業を行う。 2026.2月 阿津さくらPRポスター掲示 2026.3月上旬 阿津さくらまつり 諸準備 2026.3月中旬 阿津さくらまつりでのPR	400,000	300,000	・定期的な継続した桜周辺の整備実施(桜の剪定 等) ・桜の樹木診断 ・桜苗の増殖
	04	産業や観光の振興に関す る事業	阿津さくら自然を守る会						
	02	地域における公共的な活 動の担い手育成	9名						
	令和7年5月1日		新規						
3	05	相模湖	里山未来デザインプロジェクト @石老山	0	自然環境の再生や「里山再生」が必 要と考える。そのためには、経験豊富な 高齢者から緑地の管理や手仕事につ いて学び、教わりながら共同作業で行っ ていき、「人と人」「人と自然」「世代と世 代」を繋ぐ里山を復活させることを目的 とする。この『里山再生』活動のフィー ルドとして、相模湖地区の地主と住民の 共同財産である「石老山」を活用する。 この活動を通じて以下の4つを目的とす る 1、里山の再生を行う。 2、『情緒』『音楽的・身体的コミュニ ケーション力』を磨く。 3、若者たちが社会へ『自信』をもって 飛び出していく力を育む。 4、自然『循環』を次世代へと繋ぐこ と。 これらの目的を達成するために「石老 山」は重要で貴重なフィールドである。 「若者たち一人一人が自律して道を切 り開く力を育む」ことができる、そんな若 者を応援する温かなまちづくりを目指し て、『里山未来可能性デザインプロジェ クト@石老山』を行うこととする。	①石老山の森林や畑の管理等(草木の除伐、田畑の開墾等) 活動場所:関口付近山中、畑(詳細は別紙の通り) 日時:毎月第4日曜日 活動内容:石老山の森林や畑の管理等(草木の除伐、田畑の土地改良等) 参加者:市民(相模湖地区・緑区中心)、市外の人 主催者:自然バカの会 目的:森の材を暮らしに活用する技術や知識を学び、体験する 内容:篠竹・杉・檜木などによって荒れた土地・森になっている場所が多いため、除伐や 間伐を行う。田畑は、緑肥や自然農法によって土地の改良を野菜や穀物づくりと同時に 行っていく。 現在陸稲づくりを進めている。 4月は陸稲づくり 5月は茶畑の整備 6～9月下草刈り、クラフトづくりで利用する竹・木材の採集 10月落ち葉堆肥作り 11～1月ツリイハウスづくり 予算:消耗品費:森林管理の道具や農具代 約15万円 毎回の講師料(講師:林業・農業の講師)約3万円 計:約18万円 ②イベントについて (1)自然食材体験会 場所:石老山の麓 関口クラブ 日時:6/22(日) 催し物:そば饅頭づくり 参加者:市民(関口の住民、相模湖地区・緑区中心)、市外の人 主催者:自然バカの会 目的:地元で作ったソバを使った饅頭づくりを行う。参加希望者の他、地元関口の人に 参加してもらって、地元への理解活動の理解につなげる。 (今年度は大神田さんが別の活動で育てていたそばを使用するが、次年度以降は会の 活動で育てたものを利用していく) 予算:そば饅頭の調味料・材料・道具代:約10000円 (2)自然観察会 場所:石老山の山間 日時:7/27 催し物:自然観察 参加者:市民(寸沢嵐の住民、相模湖地区・緑区中心)、市外の人 主催者:自然バカの会 目的:石老山の豊かな自然を観察し、五感を使って自然を感じとる。自然の中で、木々 や植物、動物、昆虫など観察するだけでなく、触れ、色んな方からの知識や考え方を 知り、互いに対話をする機会や場をつくる。 予算:クルマ割り機、虫取り網、虫かご、双眼鏡(1台):20000円 (3)クラフトづくり体験会 日時:8/24 催し物:クラフトづくり (里山でとれた竹を利用しての流しそうめん、 間伐材を利用してのキャンプファイヤーを行う。) 参加者:市民(相模湖地区・緑区中心)、市外の人 主催者:自然バカの会 目的:森の材を暮らしに活用する技術や知識を学び、体験する 予算:クラフトづくりの材料代(ナイフ・ボンド・釘など):約5000円 (4)ツリークライミング体験会 場所:石老山の山中 日時:9/28 催し物:ツリークライミング 参加者:市民(相模湖地区・緑区中心)、市外の人 主催者:自然バカの会 目的:身体的な感覚や五感を使って、木に登る。自然の中で危険を察知する力を学ぶ。 予算:ロープ代、ツリークライミングの道具、ツリークライミングの講師料(約5000円):約 30000円	250,000	250,000	次年度以降は、地元の理解を得ながら、石老山の 里山づくりの活動や、畑作体験イベントを推進してい く。 将来的には、活動を進める中で会員を増やし、会 費や、会の活動で生産した農作物を利用した製品を 販売する等で自立した活動を目指していく。
	05	環境の保護・保全に関する 事業	自然バカの会						
	02	地域における公共的な活 動の担い手育成	6名						
	令和7年5月1日		新規						

令和7年度 地域活性化事業交付金			地区	申請受理日	
			相模湖	4月25日	
事業等の名称	小原地区元気いっぱい花いっぱい環境整備事業		新規・継続	継続2年目	
団体名	小原草木会		会員数	7 名	
全体金額 (単位：円)	590,000	申請金額 (単位：円)	500,000		
過年度の実績と事業による効果	・小原ふれあい広場の法面整備 業者に委託し、小原ふれあい広場の法面の整備を行った。 ・小原ふれあい広場の花植えによる景観整備 小原地域の有志を募って、小原ふれあい広場の景観整備のための花植えを行った。				
事業実施の背景や地域の現状と課題	各地に甚大な被害をもたらした令和元年東日本台風により地域の心の拠り所・憩いの場である小原地区の八幡神社の階段が全面的に崩落し、地域住民にとっては暗い影を落としたが、令和6年11月に地域一丸の努力により階段修復工事が完了した。この復興を契機に相模湖と小仏・城山や高尾山を繋ぐハイキングコースであり、小原本陣を核とした小原宿の魅力を最大限に引き出すべく小原地区周辺の環境整備を望む声が地域で高まっている。				
要綱別表該当対象事業	産業や観光の振興に関する事業（要綱第2条第1項別表第1－4該当）				
優先的な対象事業	公共的な活動への参加者増加（要綱第2条第2項第3号該当）				
事業の目的	上記の状況から地域自治会総意のもと地域の有志を募って「小原草木会」を立ち上げ、小原に訪れるハイカーや観光客へより魅力的になるよう地域の整備を行い、小原地域が活性化することを目的とするものである。 また、現在小原で進めている、中山間地域振興モデル地区の取組と併せた、魅力の創出・発信を行っていききたい。				
事業内容及び事業スケジュール	・孫山登山道の整備（小原～孫山頂上～明王峠への分岐） この整備を通じて、高尾～陣馬の登山客を誘致できる土壌を形成していく。 （1）雑木の伐採 （2）登山道階段の修復 （3）頂上へベンチの設置 （4）高木の伐採を行う				
次年度以降の事業計画及び事業展望	小原地区は、小原宿本陣を中心とした観光（地域）資源の豊富な地区である。一方、少子高齢化が顕著であり、津久井地域（津久井、相模湖、藤野）の重要課題である中山間地域対策を進めて行くうえでも、魅力ある街づくり、住んでみたい街づくり等が欠かせない地域である。そこで、小原自治会総意のもと、地域の魅力向上の一歩として地区内に住む協力可能なメンバーを中心に小原草木会を立ち上げ、まずは、小原ふれあい広場周辺の環境整備を進める計画としました。今後は、これを皮切りに地域の関係団体などとも連携を図りながら、地域の担い手の育成に重点を置いて、小原地区の他の場所においても魅力向上アップに繋がる環境整備を順次進めて行きたいと考えている。				
ヒアリング時に質問・確認依頼を受けた事項に対する見解等					
収入の部			支出の部		
費目	金額	説明	費目	金額	説明
市交付金	500,000		伐採費	390,000円	登山道の雑木伐採の重機
自己資金	90,000		木材処分費	20,000円	雑木処分費
			飲食費	10,000円	ボランティアへのお茶代
			素材費	100,000円	登山道階段費用
			ベンチ代	70,000円	登山道ベンチ費用
合 計	590,000		合 計	590,000	

令和7年度 地域活性化事業交付金			地区	申請受理日	
			相模湖	5月1日	
事業等の名称	阿津さくら保全・活性化事業		新規・継続	新規	
団体名	阿津さくら自然を守る会		会員数	9 名	
全体金額 (単位：円)	400,000	申請金額 (単位：円)	300,000		
過年度の実績と 事業による効果					
事業実施の背景 や 地域の現状と課 題	人口減少や高齢化、若年層の流出などの社会的な要因が影響していることもありますが、これに伴い地域におけるコミュニティの結束力の低下も懸念されています。住民同士の交流が減少していることで、地域の活性化が阻まれ、地域資源が有効活用されていない現状があります。このような状況を打破するためには、諸先輩方が植林した桜などの地域の自然特性を活かした、皆が参加できる取り組みを推進することが必要と考えます				
要綱別表該当 対象事業	産業や観光の振興に関する事業（要綱第2条第1項別表第1－4該当）				
優先的な対象事 業	地域における公共的な活動の担い手育成（要綱第2条第2項第2号該当）				
事業の目的	阿津地区の地域振興のために、過去に植林した河津桜の下草刈り等の保全活動や、その桜を活用した地域イベントでの発信や、地域の魅力を発信するためのPR活動を行い、地域の活性化を目指す。				
事業内容及び 事業スケジュー ル	・阿津地区の地域振興のために、過去に植林した河津桜のPRを行っていく。花見シーズンを盛り上げていくために遊歩道の飾りつけを行っていく（のぼり・提灯の準備、etc）。 ・阿津の桜を保全するための下草刈り、剪定。 ・剪定作業、広報活動等を行うためのスタッフジャンパーの用意。 ・ポスター、緑区のSNSで満開の時期に周知してもらう等の広報活動。 2025.6月～ 花見シーズン用のぼり、提灯、スタッフジャンパー発注 2025.11月～ 下草刈り、桜の剪定等作業を行う。 2026.2月 阿津さくらPRポスター掲示 2026.3月上旬 阿津さくらまつり 諸準備 2026.3月中旬 阿津さくらまつりでのPR				
次年度以降の 事業計画及び 事業展望	・定期的な継続した桜周辺の整備実施（桜の剪定等） ・桜の樹木診断 ・桜苗の増殖				
ヒアリング時に 質問・確認依頼 を受けた事項に 対する見解等					
収 入 の 部			支 出 の 部		
費 目	金 額	説 明	費 目	金 額	説 明
市交付金	300,000		事業費	150,000	のぼり、提灯、その他
自己資金	100,000		事務費	100,000	ポスター作成、文 具、スタッフジャン パー
			備品購入費	150,000	ワンタッチテント
合 計	400,000		合 計	400,000	

令和7年度 地域活性化事業交付金			地区	申請受理日
			相模湖	5月1日
事業等の名称	里山未来デザインプロジェクト@石老山		新規・継続	新規
団体名	自然バカの会		会員数	6 名
全体金額 (単位：円)	250,000	申請金額 (単位：円)	250,000	
過年度の実績と 事業による効果				
事業実施の背景 や 地域の現状と課題	昨今、日本や世界各地で気候変動や環境破壊・汚染が深刻な問題となっているが、ここ相模湖地区でも台風19号による甚大な土砂災害、また、獣害やヤマビルによる被害の多発、森林への不法投棄の多発などの問題は明らかとなっている。森や自然に関わる人がいなくなり、現在、相模湖地区に限らず、相模原市全域の『里山』は崩壊しつつある。森が放置されたことで森の保水力が低下し、土砂災害の危険性が増大している。他にも、戦後に杉などの針葉樹が大量に植えられ、広葉樹が減少したことも影響し、シカやイノシシ、クマがエサを求めに住宅地まで下り、獣害が増大している。 本会は、これら諸々の問題は、公共的な活動の担い手不足や参加への意欲の低下など相模湖地区のまちづくりに関わるあらゆる課題にも影響が及んでいくと考え、今回のプロジェクトを企画するに至った。			
要綱別表該当 対象事業	環境の保護・保全に関する事業（要綱第2条第1項別表第1－5該当）			
優先的な対象事業	地域における公共的な活動の担い手育成（要綱第2条第2項第2号該当）			
事業の目的	自然環境の再生や「里山再生」が必要と考える。そのためには、経験豊富な高齢者から緑地の管理や手仕事について学び・教わりながら共同作業で行っていき、「人と人」「人と自然」「世代と世代」を繋ぐ里山を復活させることを目的とする。この『里山再生』活動のフィールドとして、相模湖地区の地主と住民の共同財産である「石老山」を活用する。この活動を通じて以下の4つを目的とする 1、里山の再生を行う。 2、『情緒』『音楽的・身体的コミュニケーション力』を磨く。 3、若者たちが社会へ『自信』をもって飛び出していく力を育む。 4、自然『循環』を次世代へと繋ぐこと。 これらの目的を達成するために「石老山」は重要で貴重なフィールドである。「若者たち一人一人が自律して道を切り開く力を育む」ことができる、そんな若者を応援する温かなまちづくりを目指して、『里山未来可能性デザインプロジェクト@石老山』を行うこととする。			

事業内容及び 事業スケジュール	①石老山の森林や畑の管理等(草木の除伐、田畑の開墾等) 活動場所：関口付近山中、畑（詳細は別紙の通り） 日時：毎月第4日曜日 活動内容：石老山の森林や畑の管理等(草木の除伐、田畑の土地改良等) 参加者：市民(相模湖地区・緑区中心)、市外の人 主催者：自然バカの会 目的：森の材を暮らしに活用する技術や知識を学び、体験する 内容：篠竹・杉・檜木などによって荒れた土地・森になっている場所が多いため、除伐や間伐を行う。田畑は、緑肥や自然農法によって土地の改良を野菜や穀物づくりと同時にやっていく。 現在陸稲づくりを進めている。 4月は陸稲づくり 5月は茶畑の整備 6～9月下草刈り、クラフトづくりで利用する竹・木材の採集 10月落ち葉堆肥作り 11～1月ツリーハウスづくり 予算：消耗品費：森林管理の道具や農具代 約15万円 毎回の講師料(講師：林業・農業の講師) 約3万円 計：約18万円 ②イベントについて (1) 自然食材体験会 場所：石老山の麓 関口クラブ 日時：6/22(日) 催し物：そば饅頭づくり 参加者：市民(関口の住民、相模湖地区・緑区中心)、市外の人 主催者：自然バカの会 目的：地元で作ったソバを使った饅頭づくりを行う。参加希望者の他、地元関口の人に参加してもらって、地元への理解活動の理解につなげる。 (今年度は大神田さんが別の活動で育てていたそばを使用するが、次年度以降は会の活動で育てたものを利用していく) 予算：そば饅頭の調味料・材料・道具代：約10000円 (2) 自然観察会 場所：石老山の山間 日時：7/27 催し物：自然観察 参加者：市民(寸沢嵐の住民、相模湖地区・緑区中心)、市外の人 主催者：自然バカの会 目的：石老山の豊かな自然を観察し、五感を使って自然を感じとる。自然の中で、木々や植物、動物、昆虫など観察するだけでなく、触れ、色んな方からの知識や考え方を知り、互いに対話をする機会や場をつくる。 予算：クルミ割り機、虫取り網、虫かご、双眼鏡(1台)：20000円 (3) クラフトづくり体験会 日時：8/24 催し物：クラフトづくり (里山でとれた竹を利用したの流しそうめん、 間伐材を利用したのキャンプファイヤーを行う。) 参加者：市民(相模湖地区・緑区中心)、市外の人 主催者：自然バカの会 目的：森の材を暮らしに活用する技術や知識を学び、体験する 予算：クラフトづくりの材料代(ナイフ・ボンド・釘など)：約5000円 (4) ツリークライミング体験会 場所：石老山の山中 日時：9/28 催し物：ツリークライミング 参加者：市民(相模湖地区・緑区中心)、市外の人 主催者：自然バカの会 目的：身体的な感覚や五感を使って、木に登る。自然の中で危険を察知する力を学ぶ。 予算：ロープ代、ツリークライミングの道具、ツリークライミングの講師料(約5000円)：約30000円
次年度以降の 事業計画及び 事業展望	次年度以降は、地元の理解を得ながら、石老山の里山づくりの活動や、畑作体験イベントを推進していく。 将来的には、活動を進める中で会員を増やし、会費や、会の活動で生産した農作物を利用した製品を販売する等で自立した活動を目指していく。

ヒアリング時に 質問・確認依頼 を受けた事項に 対する見解等					
収 入 の 部			支 出 の 部		
費 目	金 額	説 明	費 目	金 額	説 明
市交付金	250,000		消耗品費	200,000	石老山の森林や畑の 管理道具、燃料代 その他、自然体験活 動の道具等
			食糧費	7,000	イベント・祭り等の 食糧費 講師・参加者のお 茶、材料代など
			報償費	40,000	石老山の森林や畑の 管理、自然観察会な どの講師の報償費
			保険料	3,000	イベント、お祭り等 の保険料
合 計	250,000		合 計	250,000	

まちづくりを考える懇談会のテーマ等（案）について

	方法	テーマ	概要	役員会での意見
1	まちづくりを考える懇談会	空き家の利活用について	・相模湖地区内の空き家の流通の活発化について ・空き家の流通を補助する制度について	・空き家の利活用については民泊的な整備ができれば単に貸すよりも大きい利幅が見込めるほか、お客や清掃員など関係人口の増大が見込める。 ・売り買いの需要について古民家的なものでないと売れないのではないかな。 ⇒その様なことは全くなく昭和40年代の単に古い住宅でも需要はある。 ・2拠点生活について国が強く推進するようなので、こちらの流れに乗ることはできるのではないかな。 ・残置物の撤去ができていないために売ることに後ろ向きな世帯が多くみられる。 ⇒残置物については不動産屋側で売値から引く形で処分してくれるところが多い。また、他の移住を推進している自治体であれば、残置物の撤去について補助金を持っているが相模原については中央、南区があることからそうした施策を行っていくことが難しい。 ・空き家については過去にテーマとしたことがあったが、結局地主が動かない、外の人にあまり入ってほしくない、ということがあり話し合いをしても徒労に終わったことがあり、かなり難しい。 ・空き家の利活用については昨年、津久井、藤野で同様のテーマを行っており、それを聞いた限りでは今年度中は前向きな話が帰ってきそうにないが、来年以降であれば前向きな話を引き出せそうであることから、来年以降に扱うべきテーマであると考える。
2	まちづくりを考える懇談会	小・中学校の統廃合について	・早期の小中学校の統廃合について	・学校も老朽化が進んでいるが、現状を鑑みると直すのも難しいのを感じている。ただ避難所の観点からそのままなくすのも難しい。 ・統合しただけで、今こちらで認識している問題が全て解決するわけではない。 ・相模湖地区の現状を考え小中学校の統廃合を早急に進めるために、まちづくり懇談会にてこのテーマについて懇談を行いたい。 ⇒まちづくり懇談会を行う時期に「相模湖地区小・中学校の学習環境のあり方検討協議会」にて統廃合を行うべきか否かの方針が示されることとなっており、地区としての意見がまとまっておらず、市としての方針が何も示されていない時期に、この議題での懇談を行うことは混乱を招きかねない。
3	まちづくりを考える懇談会	中山間地域の交通再編について	・現在の公共交通機関の将来的な維持について ・乗り合いタクシーの再編について	・千木良の診療所がなくなった後に足がむずかしい人もいると思う。 ⇒内郷の乗りタクの一部を千木良の診療所の跡地に回そうという話も出てくる。 ・今回の路線の統廃合にて三ケ木～相模湖間が残ることとなったが路線バスの継続のためにも地域に活発な利用を促進する必要がある。促進を進めるうえでこのテーマで懇談を行いたい。 ⇒現在、相模湖地区の乗り合いタクシーの実証実験について詳細な内容が出ておらず、このタイミングで路線バスについて懇談を行うことは4月に行われた「中山間地域の公共交通再編に係る説明会」で出た意見の焼き直し程度にしかならないと考える。
4	まちづくりを考える懇談会を行わず、話したい内容について担当課を呼び勉強会を開催し、 例）住宅課を呼んで、空き家の利活用、地域の空き家の流通に向けた取り組みについて質問をしていく 交通政策課を呼んで、乗り合いタクシーの再編の方向について意見を述べていく等			・市長がいないということは日程や時間に縛られず柔軟に行うことができるという認識でいいかな。 ⇒その通りである。 ・上記のテーマについては、抽象的で具体的に何がほしいというのが見えてこないテーマが多い。また、懇談会を行うに当たって質問の数が少なそうなテーマがある。 例えば空き家については「空き家が多くて困っている」という内容についてどういう質問をしていくかが見えてこない。 「地主に空き家をより売ってもらうようにするため」にこうしてほしいという方向があるのであれば見えてくるものがあると思う。

＜相模湖 芸術・文化のまちづくり＞
バレエのまち相模湖～日本バレエ発祥の地・神奈川より世界へ～

さがみ湖 野外バレエフェスティバル2025

9年ぶりに

開催決定！

10月18日(土)・19日(日)

会場：神奈川県立相模湖公園 野外特設ステージ

プログラム(予定)

2025年10月18日(土) 「ジゼル」全2幕

- ◆ジゼル役：上野 水香(東京バレエ団 ゲスト・プリンシパル)
- ◆アルプレヒト役：厚地 康雄(元バーミンガム・ロイヤル・バレエ団 プリンシパル)
- ◆その他の出演者：松浦 景子(吉本興業株式会社)、ブラウリオ・アルバレス ほか
- ◆芸術監督：イルギス・ガリムーリン
- ◆バレエミストレス：成澤 淑榮、挟間 祥子、マイカ・成澤ガリムーリナ
- ◆主催：神奈川県(企画制作：公益財団法人神奈川芸術文化財団)

2025年10月19日(日)

バレエのまち相模湖「スペシャル公演」(仮称)

◆「白鳥の湖」第2幕より

主演：佐久間 奈緒(元バーミンガム・ロイヤル・バレエ団 プリンシパル)
厚地 康雄(元バーミンガム・ロイヤル・バレエ団 プリンシパル)

- ◆音楽×バレエのコラボレーション 出演：式町水晶ほか
- ◆コンテンポラリーダンス 出演：東京舞座
- ◆主催：相模湖 芸術・文化のまちづくり実行委員会

◆チケットやその他の詳細については、決定次第発表します。



※画像は2009年開催時のものです。

フェスティバルに関するお問合せ：相模湖 芸術・文化のまちづくり実行委員会(相模湖商工会内)

担当：立川 Tel：042-684-3347